

2024年1月11日

各 位

会 社 名 株式会社土木管理総合試験所  
代表者名 代表取締役社長 下 平 雄 二  
(コード番号 6171 スタンダード)  
(TEL 03-5846-8385)

## 道路・軌道の異常度診断ビッグデータ共有システム「Road-s」につきまして

株式会社土木管理総合試験所（本社：長野県、代表取締役社長下平雄二）が、2018年  
に開発・販売いたしました道路・軌道の異常度診断ビッグデータ共有システム「Road-s」  
（以下「ロードス」）につきまして、社会実装を目指して活動してまいりましたが、シス  
テムとしての導入に至らず、その中で開発した一部技術（橋梁床版内部劣化調査（NETIS  
登録）等）が有効活用されている状況であります。昨今、内閣府が主導する第3期戦略的  
イノベーション創造プログラム（以下「SIP」）への協力機関としての参画が決定したこと  
から、リソースの選択と集中を実施し、現サービスにつきましては、一旦サービスを停止  
することとなりましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. Road-s（ロードス）の5年間（2018年～2023年）

2014年～2017年の第1期内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（以下、SIP）  
に参画し、そこで研究開発した技術を用いて開発したのが、ロードスでありました。  
高速調査+高速解析したデータをビッグデータ化し、それをWEBシステム上でいつ  
でも確認できる調査+データベースという当時画期的なシステムでありました。これ  
を2018年より各団体に導入すべく取組んでまいりました。結果として、システムと  
しては好評を頂きましたが導入には至らず、一部ロードスで開発した技術（橋梁床版  
内部劣化調査等）が導入されるにとどまりました。

課題といたしましては、外的要因も様々ございましたが、ロードスが調査の領域に  
とどまったこと（データベースも含めて）が大きな要因でありました。調査したデー  
タの活用方法や次の診断業務、さらに次の計画（予防保全、LCC）につなげていくこ  
とが重要であり、調査+診断+計画までの一連のプロセスをサービスとして提供するこ  
とで最終的な工事（対策）に繋がり、多くの団体で活用できるサービスとなり得ると  
認識することができました。

## 2. Road-s（ロードス）の今後について

第3期 SIP に協力機関として参画することが決定したことから、再びインフラメンテナンスの維持問題の解決に向けて研究開発を進めると同時に、当社としては、前回の課題であった「社会実装」に繋げるところまでを改善する予定であります。ロードスに利用していたリソースを第3期 SIP の研究開発に移管し、社会実装を目標に進めてまいります。

## 3. 今後の業績見通し

今期の業績に与える影響は軽微でありまして、2023年2月10日発表の通期業績予想に変更はございません。